

# エンカウンター（ENCOUNTER）

## 第 45 号

平成 18 年 1 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

### スポルジョン「朝ごとに」より（6）

10月5日

彼は起きて食べ、かつ飲み、その食物で力づいて40日40夜行  
って、神の山ホレブに着いた。（列王記上 19・8）

信者よ、キリストから得る日ごとの力を持って主のために働け。  
我らのうちある者は、われらに恵みを注ぎたもう主のご計画の更に  
多くを学ばねばならぬ。…私たちが貴重な真理の種子を保留して、  
それに成長の機を与えないというようなことがあってはならぬ。私  
たちは真理の種子をまき、それに水を注がねばならぬ。なぜ主はか  
わける血に雨を降らせ、快適な日光を送りたもうのであろう。地の  
産物が育って、人の食物となるのをこれらが助けるからではなかろ  
うか。かように主が私たちの魂を養い、力づけたもうのは、私たち  
が新しい力を用いて主のご栄光を輝かせんがためである。

10月8日

沖へ漕ぎ出し、網を下ろして漁をしてみなさい。(ルカ 5・4)

イエスと共にでなければ、私たちは何事もなすことができない。しかし、イエスと共なれば、一切のことをなしうる。キリストの御臨在が成功を与えるのである。...

けさ私たちは信仰をもって上を見上げ、厳粛な心づかいをもって周囲を見つつ、魂をすなだめる私たちの仕事に出かけようではないか。そして夜の来るまで働き続けよう。私たちの働きはむだには終らぬ。なぜなら、私たちに網を下ろせと命じたもうかたが、その網を魚で満たされるがゆえに。

10月9日

あなたがたを守ってつまずかないものとし・・・（ユダ 24）

天の父はその御腕にて私たちを支えたもう。さもなければ、私たちはすぐに倒れてしまうであろう。ああ！もし私たちが倒れないで歩めたら、日ごとに私たちを忍耐深く見守りたもう方をいかにほめたたうべきか！...

道はけわしく、私たちは弱い。がこれに加えて、敵は私たちを待ち伏せ、ほとんど予期せざる時にいどみかかって私たちをつまずかせ、また、絶壁から突き落とさんとする。しかし全能のみ腕のみが、見えざる敵から私たちを守り得る。彼は約束に対して忠実で、私たちを守ってつまずかない者とされるがため、私たちは自らの弱気を深く感じつつも、全く安全であることを確信して、喜びに満たされる。

10月11日

われわれは天にいます神に向かって、手と共に心をもあげよう。

(哀歌 3・41)

徒歩競争をする者が日々の練習によって技をみがくように、私たちも人生の大レースにおいて、聖い祈りの労苦によって力を得る。祈りは神の若鷲の翼をととのえ、雲の上に翔けのぼることを学ばせる。また祈りは神の戦士らの武装をととのえ、彼らの筋骨をたくましくして戦いに送る。

熱心な祈りの方が密室から出てくるのは、あたたかも太陽が東天から上らんとするに似ており、元気に満ちた若者が、喜びにあふれてレースに出場するになぞらえる。祈りは、モーセのあげられている手である。それはヨシュアの剣にまさりてアマレク人を敗走させる。それは預言者のへやより射られた矢であって、シリア人の敗走を預言するものである。祈りは人間的な弱さを神の力によって強め、人の愚かさを天の知恵に変え、悩める人に神の平安を与える。私たちは、祈りによって成し遂げ得ぬというものを知らぬ。

偉大なる神よ、汝の恵みの御座を感謝す。そは汝が驚くべきいくしみの不動の証拠なるがゆえに。願わくは、われらを助け、この一日、それを正しく用いることを得させたまえ。

10月30日

わたしは心を尽くして神に感謝し…

(詩篇 9・1)

祈りが答えられた時、感謝はいつでもなされねばならない。それはあたかも天上の愛の太陽が地を暖める時、地の感謝の霧が立ち上るようである。主はあなたにあわれみ深く、あなたの訴えに耳を傾けられたか。さらばあなたは生ける限り主に感謝せよ。…

感謝は私たちの重荷を去り、私たちの希望を盛んにし、信仰を増進させることを助ける。それは信者の活力を盛んにし、主の御用のために新しいことを企てる勇気を与える。…

クリスチャンの義務の中で最も素晴らしいのは感謝である。天使は祈ることをしないが、昼も夜も感謝を止めない。

10月31日

私たちのうちに新しい、正しい霊を与えてください。

(詩篇 51・10)

クリスチャンよ、あなたの弱いことを、神に熱心に助けを求めるあなたの理由とせよ。ダビデが自らの無力を感じたとき、手をこまねかず、またくちびるを閉ざることなく、恵みの座にかけつけて、「わたしのうちに新しい正しい霊を与えてください」と祈ったことをおぼえよ。あなたが1人では何事もなし得ないという教えを、惰眠をむさぼる理由とせず、イスラエルの保護者に熱心にかけつける理由とせよ。…

多く祈れ。神の御言葉に生きよ。あなたの主をあなたから追い出した肉欲を殺せ。罪が再び頭をもたげぬように注意深く警戒せよ。主はご自身の定められた方法を用意したもう。道のかたわらに座せ。主が通られるとき、あなたは備えができていよう。あなたのありやなきやの恵みを養い育てる信仰の務めを続けよ。しかしてすべての力が主から来なければならぬことを知り、「私のうちに新しい、正しい霊を与えてください」と叫ぶことを止めるな。

11月12日

あなたがたの信仰は試されて…… (第1ペテロ1・7)

信仰は、試練を受けなくても真の信仰であるかもしれない。しかしそれは弱い信仰である。信仰は試練を受けない限り、発育不全に終る可能性が大きい。信仰はすべてが非である時に、最も旺盛になる。暴風はその訓練者であり、いなくは其の啓発者である。…

逆境の中であって生き、勝利を得た信仰ほど尊いものはない。…

試練によって信仰は経験をもたらす。川を横切ることを余儀なくされるまでは、あなたは自分の弱さを認めることはできなかつたであろう。しかしてあなたは大水の中で支えられなければ、決して神の力を知ることにもなかつたに違いない。

信仰は試練によって鍛錬されればされるほど、その強さ、確かさ、熱烈さを加える。信仰は尊い。そして、その試練もまた尊いものである。

しかし、これがために信仰の若い者は落胆する必要はない。あなたが試練を求めなくても、試練は必ず来る。適当な時に十分に与えられる。それまではあなたは深い経験を要求することはできぬ。けれども、今あなたが受けているだけの恵みを神に感謝せよ。あなたが到達しただけの聖い確信のために神に感謝せよ。

この方法によって歩め。そうすれば、あなたはいよいよ神の祝福を受け、ついにあなたの信仰が山を動かし、不可能を征服するに至るであろう。

11月26日

すべてあなたのなしうる事は、力をつくしてなせ。

(伝道の書9・10)

「すべてあなたの手のなしうる事」というのは、私たちにとって可能な仕事を意味している。…

一つのおよき行為は、千のすぐれた議論にまさりて価値がある。私たちは新しい機会を待ったり、他の仕事を求めたりせず、ただ日々私たちの「なしうる」事をしようではないか。私たちは今、ただ一つの時の中に生きている。過去はすぎ去り、未来はまだ来ていない。私たちは現在以外のいかなる時も持つことはない。ゆえに、あなたの経験が熟するのを待ってから、神に仕えようなどと試みてはならない。今、実を結ぶように努めよ。今、神に仕えよ。

しかし、あなたの手のなし得ることをする方法については注意深くあれ。それは「力をつくしてなせ」ということである。あなたのわざを速やかになせ。明日の仕事を思いわずらって人生をむだに費やすな。今日の怠慢を明日の仕事で償おうなどと考えるはならぬ。…もし私たちが、キリストに祝福されて御名をあげめるとするならば、あなたの魂のすべてをそれに打ちこめ。気まぐれになされた小さな粗末な仕事を、キリストに献げてはならない。あなたが彼に仕える時、あなたの心と魂と力のすべてをそれに傾けよ。とはいえ、クリスチャンの力はどこにあるだろう。彼の中にはない。なぜならば彼は全く弱いからである。彼の力は万軍の主にある。ゆえに主の御力を求めようではないか。祈りと信仰をもって前進し、自らの「手のなし得ること」をなして、主の祝福を待ち望もうではないか。このようにする時、私たちのなすことは失敗に終ることはない。



12月14日

彼らは力から力に進み……

(詩篇 84・7)

「彼らは力から力に進む。」すなわち彼らは次第に強くなるというのである。…

常に新たな恵みの供給を受けるクリスチャンの旅は、いく年もの苦しい旅の後にも、出発した時と同じように活気にあふれている。彼はかつてのごとく意気盛んでもなく、また快活でも血気にはやってもいないかもしれぬ。しかし彼ははるかに強くなっており、ゆっくりではあるが、以前よりも確実に歩む。

白髪の老練な信者の中には真理を把握することいよいよかたく、それを伝えんとする熱情においても青年時代をしのぐという人がある。

「年若い者も弱り、かつ疲れはてて倒れる。しかし主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」

性急な人々は座して前途を思いわずらう。彼らは言う、「ああ、私たちは患難から患難へ進む」と。…されど信仰薄きものよ、それだけではない。同時にあなたは力から力に進む。患難の束の中には必ず十分なる恵みが入れられている。神は屈強な者の肩に彼にふさわしき重荷を与え、同時に十分な力も与えたもうのである。

12月25日

見よ、おとめごがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。（イザヤ 7・14）

イエスは受肉されたエホバであり、我らの主、我らの神であり、さらに我らの長兄であり、友である。私たちは彼をあがめ、ほめたたえようではないか。…聖なる幼子の前にうやうやしく頭を下げようではないか。…

また彼の両親がいやしき身分のかたであったことを見落としてはならぬ。…彼女の地位はなんとみすぼらしく、その婚約者はなんと貧しく、新しき王の誕生のための設備はなんと貧弱であったことか。

インマヌエル 神は私たちの性格の中に、悲哀の中に、生涯の事業の中に、受くべき懲罰の中に、また私たちの墓の中にいまし、現在も私たちと共にいたもう。否、私たちは、復活に、昇天に、勝利に、そして輝かしき再臨において彼と共にいるのである。